

## 平成31年度がん薬物療法認定薬剤師認定試験

### 1. 試験範囲

- ・がんの薬物療法（抗がん薬の薬効薬理）
- ・がんの薬物療法（抗がん薬の用法用量など）
- ・抗がん薬の調製に関する項目
- ・抗がん薬の有害事象と支持療法
- ・がんの疫学・診断・病期分類
- ・臨床試験
- ・各がん種の標準治療

### 2. 参考資料

- ・添付文書
- ・インタビューフォーム
- ・がん診療ガイドライン
- ・新臨床腫瘍学 がん薬物療法専門医のために-改訂第5版- 日本臨床腫瘍学会
- ・抗がん剤調製マニュアル-改訂第3版- 日本病院薬剤師会編

※ 問題見本は出題当時の添付文書および新臨床腫瘍学等の参考資料に準じたものであることに留意ください。

### がん薬物療法認定薬剤師認定試験問題例（見本）

問題 1. 大腸がんの治療に用いる抗体医薬品に関して正しい記述を 2 つ選びなさい。

- a. ベバシズマブの用法・用量は、1 回量 5 mg/kg を点滴静注して投与間隔は 2 週間以上、または 10 mg/kg を点滴静注して投与間隔は 3 週間以上である。
- b. ベバシズマブは、遺伝子組み換え型ヒト化モノクローナル抗体である。
- c. セツキシマブは、ヒト/マウスキメラ型モノクローナル抗体である。
- d. セツキシマブは、週 1 回、初回は 500 mg/m<sup>2</sup>を 2 時間かけて、2 回目以降は 250 mg/m<sup>2</sup>を 1 時間かけて点滴静注する。
- e. パニツムマブは、ヒト/マウスキメラ型モノクローナル抗体である。

問題 2. 35 歳、70Kg の患者で、6 週間前から右腹部痛と悪心のためかかりつけの診療所を受診した。腹部の CTscan の結果、後腹膜内に大きな固形の塊があることが分かった。腹腔鏡で 8.0×7.0cm の塊を除去した。患者は進行した睾丸がんとして診断され、右睾丸を摘出した。患者は BEP（ブレオマイシン、エトポシド、シスプラチン）療法の最初のサイクル治療をするために入院している。急性嘔吐の予防のために、オンダンセトロンとステロイドに追加する制吐薬のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- ① アプレピタント ② メトクロプラミド ③ プロクロルペラジン
- ④ ハロペリドール

問題 3. 抗がん薬による腎障害に関して間違っている記述を 2 つ選びなさい。

- a. シスプラチンの腎障害の発生機序は尿細管障害である。
- b. 腎障害予防のためのアセタゾラミドは尿を酸性化する。
- c. 尿酸性腎症の予防は、十分な尿量確保、尿のアルカリ化とアロプリノールの 24 時間前投与である。
- d. 抗がん薬による腎毒性は、用量非依存性である。
- e. メトトレキサートの腎障害の発生機序は閉塞性腎障害である。